

ASEAN国防相会議(ADMM)の各国代表 新型コロナウイルス感染対策で共同声明

「東南アジア諸国連合(ASEAN)国防相会議(ADMM)」に日本を含むパートナー国8カ国を加えた「拡大ASEAN国防相会議(ADMM-Plus)」は今年で創設10周年を迎え、今年のASEAN議長国ベトナムのハノイでは11月初旬に「第7回ADMM-Plus」に合わせてその記念式典も開催される予定になっている。去る2月18-20日には、今年のADMM関連の各種会合・行事の「幕開け」となるADMM非公式会議がハノイで開かれ、下記に紹介するASEAN加盟10カ国の代表(国防相・同代理)が出席した。同非公式会合では、新型コロナウイルス感染の拡大をASEAN地域に対する安全保障面での脅威との認識に基づいて、今後は加盟国間で軍事医学的対応、情報共有、人道支援などで連携・協力を強化していくとの共同声明を発出した。

ADMM-Plusの概要

- *2010年10月の創設当初は3年ごとの開催だったが、現在は年次開催。
- (1)ASEANの軍事・安全保障の課題に対する最もハイレベルの閣僚級の協議と協力のメカニズム
- (2)キャパシティ・ビルディングなど具体的で実践的な協力を通じ、地域の軍事・安全保障協力を強化
- (3)高級事務レベル会合の定期開催
- (4)5分野での専門家会合(EWG)の設置
- ①人道支援・災害救援②海上安全保障③軍事医療④テロリズムへの対応⑤平和維持活動(PKO：2020年は日本が議長国)
- *日本としては、(ADMM-Plusを通じて)「自由で開かれたインド太平洋(FOIP)」のビジョンに基づき、「法の支配」に基づく国際秩序の維持・強化の重要性への認識共有を促している。

〔人物データ・ファイル〕

《ベトナム：2020年ASEAN議長国》

■国防相 Minister of National Defence

ゴ・スアン・リック大将 Gen. Ngo Xuan Lich



2020年を通じて、「東南アジア諸国連合(ASEAN)国防相会議(ADMM)」と「拡大ASEAN国防相会議(ADMM-Plus)」および関連閣僚級会合の議長を務める。2月18-20日にハノイで開催されたADMM非公式会議では、新型コロナウイルスの東南アジア地域での感染拡大に関連して、「疾病アウトブレイクに対する防衛協力」に関するASEAN加盟国国防相共同声明をまとめ上げた。

*2016年4月の第14期内閣成立時に人民軍政治総局長から現職(国防相)に就任。
▼1954年4月20日、(紅河デルタ)ハナム省生まれ(65歳)。ベトナム共産党(CPV)政治局員(2016年-現在)。ベトナム人民軍大将(現役)。人民軍政治士官学校卒(学士：共産党組織論)。1972年人民軍に入隊し、サイゴン(現ホーチミン市)解放作戦に参加。その後、カンボジア侵攻作戦にも参加。人民軍政治総局政治部長、同総局政策局長、第3軍区副司令官、同軍区党委書記を歴任し、2007年人民軍政治総局次長。11年3月同総局長(上将)。15年10月大将に昇任。16年4月9日(第14期内閣)現職(国防相)。

《ブルネイ：2021年ASEAN議長国》

■第二国防相 Second Minister of Defence

ハルビ・モハマド・ユソフ(退役少将) Maj.Gen.(Ret.) Halbi Mohd Yusof



ブルネイ政府では国防相ポストはボルキア国王(首相兼国防相兼財務相兼外交通商相)が兼任しているため、同(ハルビ)氏がADMMなどの国際会議では同国代表の責務を果たす(第二国防相は諸外国の「副大臣」ではなく「正大臣」の職位)。
*ボルキア国王が2018年1月に内閣の任期満了を待たずに実施した「異例」の内閣改造で文化・青年・スポーツ相から現職(第二国防相)に異動。

▼1977年英国サンドハースト王立陸軍士官学校を卒業し、ブルネイ王国軍(RBAF)少尉に任官。RBAF司令官補佐官、ブルネイ陸軍(RBLF)第2大隊長、RBAF司令部作戦・企画本部1級参謀(作戦担当)、国防大臣官房戦略企画部長代行などを歴任。この間の200年には、英国王立国防大学(RCDS：ロンドン)で修士号(国際政治学)を取得。2001年2月陸軍(RBLF)司令官を経て、03年3月ブルネイ王国軍(RBAF)司令官に就任。09年12月RBAFを定年退役。10年5月副内相として入閣。15年10月文化・青年・スポーツ相に異動。18年1月30日から現職。

《タイ》

■副国防相 Deputy Minister of Defence

チャイチャー・チャンモンコン(陸軍大将) Gen Chaicham Changmongkhol



今回のADMM非公式会議では、プラウィット・ウォンズワン(Gen Prawit Wongsuwan)治安担当副首相(元陸軍司令官)の代理として出席。2017年11月に発令された第1期プラユット政権(軍事政権)の改造人事(第5次プラユット内閣)で現職(副国防相)に就任。前国防省事務次官。現役の陸軍将校時代は、実戦部隊の司令官よりも主に国防省付きの参謀としての経歴が長かった。

*タイの国防相ポストは、第1期プラユット政権(軍事政権：2014年8月-19年7月)ではプラウィット副首相が兼任していたが、19年7月に成立した現第2期プラユット政権ではプラユット首相(元陸軍司令官)が兼任している。但し、昨年11月にバンコクで開催された「ADMM非公式会議」と「第6回ADMM-Plus」ではプラウィット副首相が議長を務めており、同副首相が前政権から引き続いてADMMにおける各国国防相のカウンターパートになっている。

▼1957年1月25日生まれ(63歳)。チュラチョムクラオ陸軍士官学校卒(第27期生)。陸軍主計学校、国防大学修了。陸軍司令部各部門の参謀を経て、2011年国防省政策企画室副室長、13年国防省事務次官付き首席参謀、14年国防省政策企画室長、15年国防省副事務次官を歴任し、16年10月同事務次官。17年11月に現職(副国防相)。

《マレーシア》

■国防相 Minister of Defence

モハマド・サブ Mohamad Sabu

2月18-20日に開催されたADMM非公式会議に出席した時点では現職の国防相だったが、同24日にマハティール首相(当時)が与党連合「希望連盟(PH)」の内紛が原因で辞任し、マハティール政権が瓦解したため同(ムハマド・サブ)氏も国防相から退任した(現在は「前国防相」ということになる)。

[備考] マハティール氏辞任後は、野党各党も絡んだ下院での熾烈な多数派工作を経て、アブドゥラ国王は同29日、ムヒディン・ヤシン(Tan Sri Muhyiddin Yassin)前内相(元副首相)を次期首相に任命した。本稿執筆時点(=3月3日)では、ムヒディン氏が率いる次期内閣は発足しておらず、新し

い国防相の人事は不明。

*2018年5月の歴史的な政権交代で就任したマハティール首相(当時)が他の閣僚人事に先駆けて任命した各省大臣3人のうちのひとり。マハティール政権発足時には与党連合「希望連盟(PH)」の第4党だった「国民信託党」の総裁。通称マット・サブ(Mat Sabu)。

▼1954年10月14日、(英領マラヤ)ペナン・タセッグルゴール生まれ(65歳)。「国民信託党(Amanah)」総裁。マラ(MARA)工科大学(現UiTM)卒。1975年に参加した「マレーシア・イスラム青年運動(ABIM)」を経て、81年「全マレーシア・イスラム党(PAS)」入党。90年総選挙で下院議員に初当選(PAS)し、以後、99年総選挙まで連続3回当選。2004年、08年、13年の総選挙ではいずれも「統一マレー国民組織(UMNO)」(現野党第1党)の候補に惜敗。18年5月総選挙でPASから分派した新党Amanahから出馬し下院議員に返り咲き。18年5月21日成立のマハティール内閣で国防相(→20年2月24日)。

《シンガポール》

■国防相 Minister for Defence

ン・エンヘン〈黄永宏〉Dr Ng Eng Hen

2011年5月から現職(国防相)。シンガポール陸軍医務将校(大尉)を務めた経歴を持つガン専門医(米国腫瘍外科学会会員)で、01年に国会議員に初当選し政界入り。05年から第二国防相を務めていたこともあり、06年5月に創設されたADMMには精通している。

*シンガポールは南シナ海の領有権問題では中国との友好関係に配慮して「当事者のいずれの側にも立つことなく(ASEANの)共通の利益を守る」という基本的な立場を堅持。但し、自国の安全保障では米国との関係が最優先で、同(ン)氏は、昨年12月には米領グアムのアンダーセン米空軍基地にシンガポール空軍の常設分遣隊基地を建設するための合意書にマーク・エスパー米国防長官との間で調印している。

▼1959年12月10日生まれ(60歳)。華人でキリスト教徒。与党「人民行動党(PAP)」中執委員。シンガポール国立大学(NUS)医学部卒(MBBS)、同大学医学修士(外科)。(英)エディンバラ王立外科学会研究員、シンガポール陸軍医務将校(大尉)を経て、1990年シンガポール総合病院(SGH)顧問外科医。97年開業医(胸部外科専門)。2001年国会議員に初当選(現在4期目)。02年(ゴ-・チョクトン政権)国防相(教育/人材開発)、03年人材開発相代行兼上級国防相(教育)。04年(リー・シェンロン政権)人材開発相兼第二教育相、05年人材開発相兼第二国防相、08年教育相兼第二国防相。11年5月に現職(国防相)に就任。15年10月1日発足の第4次リー政権で再任。

《インドネシア》

■国防省事務次官 Secretary General of the Defense Ministry

アグス・セティアジ海軍中將 Vice Admiral Agus Setiadj

今回のADMM非公式会合でプラボウォ・スビヤント国防相(退役陸軍中將: Lt. Gen. [ret] Prabowo Subianto)の代理としてインドネシア代表団を率いた。会合期間中の2月19日には、議長国ベトナムのゴ・スアン・リック国防相と会談し、インドネシア国軍(TNI)とベトナム人民軍(VPAF)との間での情報交換、代表団交流、人員訓練などを通じた近年の連携・協力関係の深化や海軍・空軍・海上保安機関による合同業務の成果を相互に高く評価するとともに、両国の軍事的な関係の一層の強化で合意した。

*2019年2月に現職(国防省事務次官)に就任。前国防施設庁長官。

▼1962年8月31日、中ジャワ州スマラン生まれ(57歳)。1985年海軍士官学校卒。海軍各部署・艦隊の参謀や司令官を歴任。2017年海上保安庁(Bakamla)長官を経て、18年国防省国防施設庁(Baranahan)長官。19年2月現職(国防省事務次官)に就任。国防爆発物製造・関連事業会社「DAHANA」取締役会長など国防関連企業の役員を兼任。

《フィリピン》

■国防相 Secretary of National Defense

デルフィン・ロレンサーナ(退役少将) Maj.Gen.(Ret.) Delfin Lorenzana

2016年6月のドゥテルテ現政権発足時にドゥテルテ大統領に請われて現職(国防相)に就任。駐米大使館駐在武官を経て、駐米大使館付き退役軍人問題担当大統領特別代表を11年間務めた知米派。

*駐在武官時代には、「訪問米軍に関する地位協定(FVA)」に基づく軍事演習・支援、および対イスラム過激派「アブサヤフ(ASG)」掃討作戦での米軍

事顧問団の円滑な活動遂行とその支援で重要な役割を果たした。それだけに、ドゥテルテ大統領が今年2月にFVAの破棄を独断で決めたことには、内心では相当な抵抗や葛藤を感じているとされる。

▼1948年10月28日、ソクサージェン地方コタバト州ミッドサヤップ生まれ(71歳)。退役陸軍少将。フィリピン陸軍士官学校(PMA)卒(1973年期生)、アテネオ大学(マニラ校)経営学修士(MBA)。オーストラリア国立大学(戦略研究)、米ハーバード大学(上級国際指導者コース)、米国務省(危機管理コース)で研修。陸軍では、第2偵察レンジャー大隊(ダバオ市)大隊長、軽機甲旅団長などを歴任し、2001年特殊作戦司令部(SOCOM)司令官。02年駐米大使館駐在武官を経て、04年から15年まで駐米大使館退役軍人問題担当大統領特別代表。16年6月30日のドゥテルテ政権発足時に現職。

《カンボジア》

■副首相兼国防相 Deputy Prime Minister & Minister of National Defense

ティア・バン Samdech Pichey Sena Tea Banh

本邦外務省などの文書では、現地語の発音に忠実な「ティア・パニユ」との表記も。2006年5月の第1回会議から出席しているADMMの各国代表では「最古参」。「親中派」の急先鋒で、ADMMでも親中的な発言が多い。

*「プノンペン政府」時代の1988年から現在まではば一貫してカンボジア国防省のトップに君臨してきた、フン・セン首相の最側近。シハモニ国王から「ソムデク(Samdech)」の称号を授与されている。

▼1945年11月5日、ココン州ココン郡生まれ(74歳)。与党「カンボジア人民党(CPP)」中央常任委員。人種はタイ族。高校を卒業し小学校教員を務めていた1962年に「カンボジア共産党(PCK)」入党。70年「カンボジア民族統一戦線」の活動に参加するが、74年にPCKと決別。78年反ポル・ポト勢力の「カンボジア救国民族統一戦線(UFNSK)」結成に参画。80年「カンボジア人民革命軍」編成責任者・参謀次長。82年(カンボジア人民共和国)プノンペン政府副国防相。84年「カンボジア人民革命党(KPRP:現CPP)」中央委員。プノンペン政府において、85年通信・運輸・郵政相、87年閣僚評議会副議長(副首相)、88年副首相兼国防相を歴任。93年10月(カンボジア王国政府発足時に)共同国防相、98年上級相兼共同国防相、2004年副首相兼共同国防相を歴任。06年から現職(副首相兼国防相)。18年9月6日(第4次フン・セン政権)再任。

《ラオス》

■国防相 Minister of National Defence

チャンサモン・チャンニャラット中將 Lt.Gen. Chansamone Chanyalath

2016年1月の第10回ラオス人民革命党(LPRP)大会でブンニャン・ウォーラット(Bounhang Vorachit)書記長(国家主席)をトップにする指導部成立に伴い初めて政治局入り(序列8位)。4月の第8期第1回国民議会(国会)が承認した閣僚人事で副国防相から現職(国防相)へ昇格。ラオス人民軍中將。

▼1946年、北部・ボンサリー県生まれ。人種はカム(Khmu)族。「ラオス人民革命党(LPRP)」政治局員。ラオス人民軍政治総局長、国防研究所長、副国防相を経て、2016年4月20日から現職。

《ミャンマー》

■国防相 Minister for Defence

セイン・ウィン中將 Lt-Gen Sein Win

テイン・セイン政権下の2015年8月、現職(国防相)に就任。16年3月に発足した国民民主連盟(NLD)主導の現政権でも再任された(憲法に基づきミン・アウン・フライン国軍司令官〔上級大将: Snr-Gen Min Aung Hlaing〕が指名)。現役将官であり近いうちに国軍司令部付に異動になるとの観測が出ている。

*ミャンマー政府における国防相の業務は、議会・行政府と国軍の間の調整役、およびADMMなど国際的な安全保障関連会議で政権を代表する国防・軍事分野の「外務担当者」。国軍組織では国軍司令官の部下。

▼1956年7月24日、ザガイン管区域生まれ(63歳)。人種はビルマ族。国軍幹部候補生学校(OTS)卒(第54期生: 理学士)、国防大学卒(修士: 軍事学)。陸軍中將(現役)。国軍防空局長を経て、2015年8月24日(テイン・セイン政権)現職(国防相)。16年3月30日発足のテイン・チャー政権、18年3月30日発足のウィン・ミン現政権で再任。

(アジア・リンケージ 勝田 悟)